

心中も視野 県警が捜査

あわらの夫婦死

12/20 早稿



あわら市北、無職吉川孝さん(73)と妻良子さん(68)の遺体が十八日に自宅で発見された事件で、県警捜査一課とあわら署は十九日、自宅の搜索や付近の聞き込みをするとともに、司法解剖などで死因の特定に当たった。発見当時、孝さんは首をついた状態で、県警は第三者が介在した可能性は低いとみている。二人とも病気を抱えており、心中または、何らかの理由で良子さんが亡くなり、後追い自殺した可能性を視野に捜査している。

県警などによると、吉川さんは夫婦一人暮らしでしたが、良子さんは坂井市内の老人福祉施設に入所して、最近は毎週土曜日午後に帰宅外泊し、翌日曜日の午後に戻る生活。十七日も午後に帰宅していた。

二人の遺体が発見されたのは、十八日午後五時四十分ごろ。近所の女性(26)によると、同日午前八時四十分ごろ、回覧板を届けに吉川さん宅を訪れたところ、普段と違い、玄関の鍵は開いたままで、呼び掛けにも返事がなかつた。女性は不思議に思ったが「体調が悪いのだべう」と思い、回覧板を置いて帰つた。事件に

は夜に救急車が来るまで気が付かなかつたという。

2人とも病気抱え

退職後に食道がんで入院を繰り返しながらも、週末には心の病で施設に入所する妻を自宅に送り迎える夫一。年配の夫婦が自宅で遺体となつて発見された事件に、近所の住民は驚きを隠さなかつた。

亡くなつた吉川孝夫さん、良子さん夫妻は福井市から五年ほど前に転居。

夫さんは近くの建物解体・リサイクル会社に定年まで勤務。良子さんは二年ほど前に入所するまでは近所を愛犬とよく散歩していたが、フンの後始末をしないなどで苦情もあつたという。

近くの女性らは「社交慣れした感じで、話し方も優しかつたし、いい夫だと思った」と話す。吉川さんは昨年暮れに病気の手術で一、二カ月入院した後も入退院を繰り返し、術後も体調が思わしくないようになつたといふ。一方、今年に入つてから家の屋根瓦や外壁を直したばかりだった。「近所にいい人が来てくれたと喜んでいたのに、お別れもできなかつた」と目にためた涙をぬぐつていた。